

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 福井県陶芸館【福井・丹生郡】(https://www.tougeikan.jp/event/detail_0260_20240709R6Kanzouhinten.html)

7月9日(火)～10月14日(月・祝)

令和6年度館蔵品展

「新古到来！楽しきやきものー古越前・楽茶碗・芥山・クレイワーク」

古いものから新しいものまで、やきものを楽しく知ってほしい！今回の館蔵品展では、各時代の個性豊かな面々を紹介しします。また昨年度、新たに収蔵した「古越前の壺」、「大樋焼の赤楽茶碗」、「塚原芥山の作品」をお披露目いたします。



2. 京都工芸繊維大学 美術工芸資料館【京都・左京区】(<https://www.museum.kit.ac.jp/20240902.html>)

9月2日(月)～10月26日(土)

企画展：「京都高等工芸学校シリーズ2

東洋へのまなざしー京都高等工芸学校初期収集の陶磁器を中心に」
京都工芸繊維大学の前身校のひとつである京都高等工芸学校(明治35年開校)では、教材として多くの「参考品」を購入していました。それらは、講義や実習で生徒に示されただけでなく、地元京都で伝統産業に携わる人びとにもひろく公開されていたことがわかっています。京都高等工芸学校時代に購入された参考品としては、ロートレックやクリムトなどによるポスター類やアール・ヌーヴォーの陶磁器、ティファニーのガラス器類などがよく知られています。京都高等工芸学校の図案指導が欧米の最先端のデザイン状況を伝えることを中心としていたため、わたしたちもそのような欧米の美術工芸品をみていただく展覧会を多く企画してきました。しかし、京都高等工芸学校では、そのような欧米の美術工芸品だけではなく、日本の古美術やさらにアジアの工芸品や民族衣装なども購入し、収蔵していました。今回の展覧会では、京都高等工芸学校初期の収集品のなかから、これまであまり注目してこなかった中国大陸や朝鮮半島で製作された陶磁器を展示します。そこには後漢時代の出土品や三国時代の新羅でつくられた土器なども含まれています。京都高等工芸学校の図案教育の、これまで知られていなかった側面をご覧に入れることができると思います。明治時代後期から大正時代にかけての「ものづくり教育」のなかで収集された、ちょっと意外な東アジア陶磁器の数々から、当時の東洋へのまなざしをお楽しみください。



3. 滋賀県立陶芸の森 陶芸館【滋賀・甲賀】(<https://www.sccp.jp/exhibitions/18895/>)

9月14日(土)～12月8日(日)

特別展「躍動するアジア陶磁ー町田市立博物館所蔵の名品からー」

日本屈指の東南アジア陶磁コレクションで知られる、町田市立博物館(現在休館中)の陶磁器やガラス工芸の優品約150点を厳選して展示します。多彩な作品を通じて、魅力に溢れたアジア工芸の世界をお楽しみいただけます。

